

視聴覚教育

NO 182

発行日

4. 5. 20

発行

岡崎市AVL

編集

広報委員会

標準教材品目

現職教育視聴覚部長 加藤 憲 尚

幼稚園や保育園の生活発表会で若い父親や母親がビデオカメラを構え、わが子の姿を懸命に撮っている風景はごく普通になって来た。少し前まではスチールカメラが主流だった。今やスチールカメラはひとり一台、ビデオカメラは一家に一台の時代がやって来たようだ。

家庭ですらこうであるから、まして学校で使う機器の進展も著しいものがある。ビデオプロジェクトなど学校独自予算で購入できるなんて考えてもみなかったものが、比較的安価となり、普及しはじめている。レコードからCDへの変遷も急だった。それだけにCDプレーヤーが不足している学校も多いことと思う。このように、その昔、重要とされ、各学校で整備がすすめられた教材・教具でも、今はさほど重要視されなくなったものや、逆

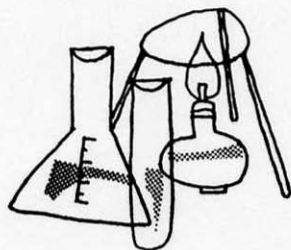
に新しく設置をした方がよいと思われる教材・教具もほとんど登場して来た。

そこで文部省も平成三年三月に、以前あった「教材基準」に代わる「標準教材品目」を十三年ぶりに明示した。これは学校で設置すべき教材備品の数量を学校規模別に示したものである。

視聴覚機器・教材で言うならば、かつて教材基準に示されていた八ミリ映写機や撮影機、アナライザーなどは削除され、ビデオディスクやコンパクトディスクプレーヤーなどが登場して来た。

学級数の区分でも従来とは異なり、ぐつと少なくなり、三段階となった。小学校・中学校とも五学級以下を「小規模」、十八学級を「標準」、三十一学級以上を「大規模」としている。具体的品目を小学校であげると、OHPは小規模六台、標準十九台、大規模三十七台、VTRは、小規模八台、標準二十三台、大規模四十一台といった具合である。

この品目の中にコンピュータが入っていないのは、早急に整備を必要とする関係上、国の補助金制度が適用されているからである。リストアップされた品目についての財源は、すべて地方交付税によってまかなわれることになっている。いずれにせよ数量だけにとらわれ、活用がおろそかにならないよう心しいものである。



研究方針と組織決定!!

■今年度の研究主題

個性を大切にし、人間性豊かな子どもを

育てるための視聴覚教育のあり方を追究しよう

■研究の重点

- (1) 授業で生かせる自作視聴覚教材の制作とその活用
- (2) 学習効果を高める放送学習の実践
- (3) 視聴覚教室の総合的な活用
- (4) 校内放送の充実と双方向システム活用法の研究
- (5) パソコン機能の理解とその活用法の研究

■組織

部長 加藤 憲尚(矢北中長)

牧野伊佐夫(竜美丘小長)

中山 昌司(六名小長)

指導員 高木 和広

世話係 萩原 寛(大樹寺小)

加藤 尚(緑丘小)

内田 義和(新香山中)

小栗 正貴(北中)

ライブラリー職員

岸 明信

山内 薫

原田 平(六中)	杉浦 修(矢作中)	内藤 法雄(愛宕小)	八田 敏公(連尺小)	羽根淵 一夫(美川中)	鈴木 淳二(細川小)	名倉 嘉章(上地小)	浅井 英之(梅園小)	上原 健次(竜美丘小)
----------	-----------	------------	------------	-------------	------------	------------	------------	-------------

ライブラリーだより

★16ミリ映画の配達・回収

ライブラリーでは、16ミリ映画の配達・回収サービスを行っています。毎週火曜日に小中学校や市民センターへ配達し、翌週の月曜日には回収します。「視聴覚教材・機材目録」でフィルムを選び、必ず電話で予約して下さい。

★ビデオのダビング

ライブラリー等で制作した自作ビデオのダビングを行っています。ビデオテープの背に番組名と学校名を書いて送ってください。なお、原則として一番組一本のテープにしてください。



各種大会・研究会のお知らせ

- 愛知県放送教育特別研究会 8月7日 半田市
- 学校視聴覚教育全国大会 10月15日・16日 埼玉県戸田市
- 全国視聴覚教育研究大会 10月22日・23日 山口県山口市
- 東海・北陸地方放送教育研究会 10月29日・30日 岐阜県大垣市
- テレビと生涯学習研究協議会全国大会 11月5日・6日 鹿児島県鹿児島市
- 放送教育研究会全国大会 11月12日・13日 和歌山県和歌山市